

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370800520		
法人名	医療法人弘友会		
事業所名	みんなの家 そよかぜ		
所在地	総社市小寺990		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成 6 年 1 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームより四季折々の景色が眺められる環境の中で春は桜や桃の花が咲き、隣接する小学校や保育園からは子供たちの元気な声が聞こえてくる環境にあります。ご利用者の皆様に家庭的な雰囲気の中で明るくゆったりと過ごしていただき安らぎや潤いのある人生を送っていただく様に努めています。毎日の食事は地元の旬の野菜をたっぷり使い季節感を取り入れた献立を提供している。コロナ禍の為面会や外出も制限がありますが出来るだけご本人様ご家族様職員間の情報を共有してお互いが認め合い感謝の気持ちや言葉を伝えることを目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者をはじめ職員は本人を知ることが大切にしてしています。本人の状態にあわせて出来ることを工夫し一緒に実践したり手伝ってもらった際には必ず感謝を伝えるようにしています。入居者と職員全員が感謝の気持ちが強く『ありがとう』が飛び交っているホームです。管理者は声掛けの仕方など教示し職員が入居者との信頼関係を構築できるように努めています。敷地内にクリニックがあり24時間体制の医療連携で入居者や家族、職員の安心感に繋がっています。手作りの食事は五感を刺激することができ、美味しく楽しみのひとつとなっている様子が見受けられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全人的で温かな医療介護を提供し、地域の健康増進に寄与する。の理念をもとに入居者様一人ひとりが自分らしく笑顔で生活できるように職員間での情報共有を大切に、支援に繋げている。	法人の理念がホームの理念になっています。数年前法人の経営者が変わり理念も変更になりましたが意識づけとして毎朝各部署から1名職員が朝礼に参加し、理念を唱和していましたが、コロナの為今は行えていません。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為ブロック分け継続の為交流できていない。	地域の情報はホームにも共有され声もかかっていますがコロナのため参加を断念しています。ホーム周辺を散歩した際に小学生が声を掛けてくれたり、同法人事業所内の保育園児がハロウィンパレードを見せに来てくれたりもしています。今後地域との交流を増やせるよう検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人を通してではあるが、外部からの問い合わせや見学などの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為会議を中止して文書での報告とご家族の代表の方からの意見を取り入れていました。令和5年8月より開催しています。	2か月に1回開催し地域の方や家族も毎回参加しホームの現状を知ってもらっています。誰でも発言しやすい和やかな雰囲気で見聞交換の場となっています。開催場所は同法人の事業所でローテーションになっており、そよがが会場の時には家族の隣に入居者が座り一緒に参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からのメール等で	市からのメールで研修などの情報を得ており、研修には可能な限り参加するようにしています。市が主催した市内のグループホームの管理者が集まった意見交換会がありましたが、現在はコロナのため中止になっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで身体拘束について読み合わせ確認を行いテーマをあげて検討している。	身体拘束についてのチェックシートを用いてミーティング内で該当がないか話あっています。入居者の事例の中で身体拘束になりうると考えられることに関して事例検討も行っていきます。本人の気持ちを第一に安全も考慮した対応を日々心掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで身体拘束について読み合わせ確認を行いテーマをあげて検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月のミーティングで身体拘束について読み合わせ確認を行いテーマをあげて検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定のあった場合は、説明して納得理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やメール等で問いかけや意見を共有している。	家族には面会や電話で現状も伝えながら意見を聞き反映できるように努めています。法人で介護相談員の受け入れをしており、法人全体の評価をまとめて教えてくれる中でホームとしての気づきになり、入居者の意見としても受け止めサービスの質の向上を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	疑問に思う事等担当者や所属長会議等で質問確認を行っている。	ユニットごとで毎月のミーティングの方法は異なりますが職員全員で入居者のことを考えたり、意見を伝えれる雰囲気があります。家庭の状況をふまえた働き方や希望休は必ずとれるように配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の経営者が代わりコロナもあり、以前の様には声をかけてもらえない。評価表も無くなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	該当者が居れば法人内で実務者研修に参加している。定期的な、全体カンファレンスは、無くなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は市内で意見交換会等開催されていたが現在は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までにご本人との面談ご家族からの要望等に耳を傾け、些細な問い合わせにも対応するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限りご本人からの聞き取りを行い、ご家族からの要望も可能な限り取り入れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって一番必要なことを聞き取り情報から検討し、先に繋がるように考え支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態や変化をご家族に伝え、電話での会話や面会等での時間の共有することで関係の維持が出来るよう環境づくりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会を家族以外中止している。	年賀状や暑中見舞いを出す時に入居者にコメントを書いてもらうことがあります。お便りを入居者ごとで写真を変えて送付したり、出来る形で関係継続の支援に努めている様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの過ごし方等を見守り様子観察をする中で、入居者同士の関係性を把握し安心して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪問があったり相談できるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやご家族からの情報を取り入れている。	本人を知ることが大切にし家族と話したり。スキンシップ(手に触れるなど)をしながら表情や仕草から思いを汲みとるようにしています。管理者は職員が入居者1人1人と関係を築けるような距離感や声掛けの方法を考えて対応するように伝えていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく入居後の生活の様子の中で把握した情報を共有することで、その人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態の変化に合わせて職員間での情報共有をすることで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員一人ひとりが感じたり、疑問に思っていることを発表し意見を出し合いケアの統一化に努めている。	計画作成担当者はミーティングにも必ず参加し職員の意見を聞き、また、家族には面会や電話で意見を聞いて介護計画に反映できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録 申し送りノート 実施評価表等で共有 把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなサービスには取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との接触図れず取り組めていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の訪問診療を活用しながら定期健診も実施している。	入居時に話をし納得した上で法人内のクリニックに切り替わることが多い様子です。敷地内にクリニックがあることで往診は週に2回、訪問看護は週に1回来るので入居者の状況が伝えやすく連携がとりやすい様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師との連携を図り、週一回の訪問時以外でも相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	敷地内にあるクリニックで情報交換もでき良い関係づくりも出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃よりご本人様ご家族様の希望を確認して記録に残している。	入居時に終末期の意向について話をし書面に残しています。何かあればその都度思いを確認し最期まで寄り添った対応をすることを心掛けています。管理者は職員が安心できるように精神面をフォローした声掛けをしています。	知識や技術、環境を強化し今後も思いに寄り添った見取りの継続に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は出来ていないが、敷地内に医療体制が整っている為連絡方法の徹底は、周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施は出来ていない。ミーティングでの時に図面上で再確認を実施している。	コロナのため訓練の実施が難しかったですが、令和5年度から火災訓練を実施しています。ハザードマップ上では災害の危険性がない地域になっています。建物の構造上エレベーターが家庭用だったり、2階の扉を出たらすぐ階段になっているので避難方法を検討しています。	災害時の避難方法や地域との協力体制もふまえた対応に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けなど常時心掛けています。	入居者と職員の関係性にあった声かけを大切に、入居者が選択できるようなレクリエーションを準備し自己決定を促しています。職員は日々の中で入居者に感謝を伝えることも大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話・コミュニケーションの中で、レクリエーションや食事の献立等希望をお聞きしたり選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の想いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材等を見たり触ったり生野菜等を一緒にしている。	1日の中で摂取できると良い食品の表を目安に食事を手作りしています。献立は作るタイミングで決め準備段階から五感を刺激しながら食事を楽しめるようになっていく様子が窺えます。誕生日には本人が食べたいメニューを準備しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調に合わせてたり摂取の記録を共有して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、訪問歯科診療を受けており異常の早期発見が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導や一人ひとりのパターンに合わせて誘導している。自家製のヨーグルトを作り提供している。水分摂取も工夫している。	介護度に限らずトイレに座った排泄介助を支援しています。トイレでの排泄により排尿、排便を促し爽快感が得られることに繋がっています。入居者の着用感も考慮して24時間布パンツとパットでの対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜をしっかり取り入れ、水分摂取量に気を付けながら医師や訪問看護師との連携のもと取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のタイミングに合わせて、ゆっくり湯舟に浸かってもらえるように努めている。	入浴の曜日は決めています。ゆっくりと対応できるように職員配置に配慮しています。1対1で話せる機会を活かして昔の話をしたり本人をより知る時間になっています。入浴剤を入れたり入居者が楽しんで入浴できるような工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾民の強い方や浴後等は状況に応じて居室で臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを活用把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日 季節の行事等気分転換が出来て笑顔の見える生活の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩等をしている。	気候の良いときにはホーム周辺を散歩しています。以前は外食など外出の機会がありましたが今は中止し、出来ることをして気分転換を図っています。今後のコロナの状況により外出等再開予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することはないがお小遣いとして家族から預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為面会が出来ないことから 電話の画面越しからや手紙でやり取りが出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾り タペストリー等で居心地よい空間を提供している。	精神科の先生からもらった絵を飾ったり行事の写真飾りしています。家庭的な雰囲気があり、職員もゆったりとした様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間の中でも自分らしさを出されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に家族の写真などを飾られている。	タンスや布団など慣れ親しんだ物を持ち込んでいます。行事での写真を貼っていたりホームにあったソファを居室に置いていたり、入居者1人1人が過ごしやすい居室作りをしている様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る、出来ないことよりも その日の感情に合わせて取り組んでいる。		